平成２１年度　「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	農家・市民の協働による地域【緑･農･住】組織づくり
対象地域	三重県松阪市山室町竹林地区（及びその周辺の遊休農地の活用）
対象地域の概要	 耕作放棄地の状況↑ ↑体験農園の状況
提案内容の概要	竹林地区の農家は、高齢化が進み、通常の方法での営農継続･後継者獲得が困難となる中、将来の地域管理への危惧から、農地を周辺に居住する市民のレクリエーションの場に提供し、都市住民との協力による地域維持の糸口を見つけようと、竹林まちづくり推進協議会を設立し、この数年に亘り土取り跡地の畑地を借り受けＪＡ松阪の協力を得ながらボランティア活動として体験型農園の共同実施を行ってきた。 最近は、このような農体験を通じた地域コミュニティへの参加を機に新たに居住する者も出つつある状況である。 こうした実績を踏まえ、将来に亘って地域の緑･農･住を総合的に管理できる、しかも自立した組織づくりを目指し、一つはＵＪＩターン、2 地域居住等との積極的な結びつきを図ると共に、もう一つは様々な地域での事例学びつつ、ボランティアにとどまらず事業としても自立し地域のコミュニティ形成に貢献できる組織づくり、事業計画を作成し、活動のステップアップを図りたいと考える。
提案する活動の内容 （１）地域の課題	市街地の端末に位置しており、高度成長期に開発された古い住宅地は高齢化が進む中で空洞化が目立ち、他方、農家側でも同様に高齢化が進み、現在の農業生産性のもとでは営農を継続する後継者の確保は困難となりつつあり、耕作放棄地が増大している。 こうした中、従来からの地域コミュニティの先行きは大変厳しくなっており、従来の発想を超え、非農家の市民、大都市圏からのＵＪＩターン、高齢者の受け入れ等により農地･地域の管理を図る必要がある。そのため、地元で活動してきた竹林まちづくり推進協議会が様々な情報、ネットワークを有している(財)都市農地活用支援センターと協力して本モデル事業を実施する必要がある。(竹林まちづくり推進協議会のこれまでの活動としては、H16 年からＪＡ松阪と協議し準備を行い、H18 年 8 月協議会を設立、H19 簡易型体験農園を試験的に開園（73 名参加)、H20 年本格的な体験農園開始（38 名参加)、また、H17～H20 にかけ、土取り跡地の緑･農･住まちづくり構想を検討中)

（2）活動内容の案	活動① ：試行して来た体験型農園の充実（作付け品目、農業指導技術、ふれあいイベント等）
	内容 ：これまでの参加者へのアンケート調査を行い、満足度、ニーズを把握すると共に、他地域で成果を収めている農場経営･技術指導者を招聘し、指導･アドバイスを受ける。 これをもとに、作付け品目等の改善計画を策定すると共に、市民への技術指導方法の向上を図る。 また、これまでも農家の主婦が中心になって運営してきた地場野菜の即売会、試食会、ふれあいイベント等の充実を図る。
	活動② ：より広範な市民や大都市圏等の住民への情報発信と収穫祭バスツアーの実施
	内容 ：松阪市民会館や名古屋市公共施設等において、農ある生活、エコライフ、スローライフの楽しさを知ってもらい、竹林地区での活動に興味を持ってもらうためのセミナー等を開催する。また、竹林地区で考えている緑･農･住のまちづくり構想に関し、アンケート調査によりニーズを把握する。 また、参加者を中心に、実際の活動をより多くの方に体感いただくために収穫祭バスツアーを実施する。
	活動③ ：自立できる事業計画とそれを担う組織案の作成
	内容 ：全国各地で進んでいる先進事例をもとに、また、得られたアンケート調査結果等をもとに事業計画、組織の原案を検討する。その際、必要な専門家、実践者を招聘しアドバイスを受けると共に、協議会メンバー、メンバーの家族及び周辺の関係者等により複数回のワークショップを開催する。
応募団体名	竹林まちづくり推進協議会、JA 松阪
リンク	
部局／担当者名	竹林まちづくり推進協議会　事務局　川端　勝 （松阪農業協同組合内）
連絡先	0598-28-2111（内線 294）
推薦市町村名	三重県松阪市